

関西浦高会・通信

今年の春のイベントは、大阪の街をクルーズ船から眺め、川からお花見をすることにしました。



水の都・大阪の街を、川から探検！

江戸時代、東京が「大江戸・八百八町」と言われたのに対して、大阪は「浪華（なにわ）八百八橋」と言われました。豊臣秀吉が、大阪城の守備固めと治水対策、そして城下の拡大を図るために、堀川の開削事業を起し、その後、徳川三代将軍・綱吉の時代までに 15 本の堀が開かれ、「水の都」と呼ばれるようになりました。4月9日（日）、難波・湊町リバープレイスから



“なにわ探検・桜スペシャルクルーズ”に乗船、大阪の川と橋をめぐりながら大阪市内を船から探索、見頃を迎えた大川沿いの桜を川面から愛でるクルーズです。雨の日が続き、当日の天気が心配されましたが、雨も9時前には上がり、お花見日和となりました。11時に船着場を出航し、船旅のスタートです。



低い橋の下を潜り抜けるので、船は、客室を昇降させることで高さ調整をし、橋の下ぎりぎりの高さを通過します。先ず、クルーズ船は西に下り、道頓堀川水門を抜けて右折し、木津川に入ると右岸には、銀

色の円盤形をした京セラドームが見えてきます。オリックス・バファローズの本拠地として、プロ野球試合やコンサート会場として使用されています。さらに、川を遡り中央大通にかか



る木津川大橋をくぐると、1868年の大阪開港と同時に設けられた外国人居留地・川口居留地跡に今も残る川口キリスト教会の煉瓦の建物が見えてきます。さらに進み、端建蔵橋（はたてくらばし）をくぐり、右に進路をとって堂島川に入ると、土佐堀川と



に挟まれ 22 本の橋で対岸とつながる中之島になります。堂島川の左岸・中之島には

大阪国際会議場やリーガロイヤルホテル、国立国際美術館、右岸には、福沢諭吉生誕の地でもある中津半蔵屋敷跡にあった大阪大学医学部附属病院跡地を再



開発し、2008年に出来た朝日放送のビルとほたるまちがあります。更に川を上ると、ベルギー国立銀行をモデルに、辰野金吾らが設計した、緑色の円屋根を持つ2階建ての日本銀行、煉瓦造りの大阪中央公会堂等明治の建物が見えてきます。



満開の桜を、川から愛でる



川沿いには桜が植わり、中央公会堂の煉瓦の建物の風情を添えていました。普段は、天神橋をくぐり、東横堀川に入りますが、桜のこの季節、大川に船足を延ばします。天満橋をくぐると、右手、京阪電車陸橋



越しに大阪城を望むことが出来ました。さらに川を遡ると、右岸には毛馬桜之宮公園があり、大川沿いの南北約4kmにわたる桜並木が見頃となっていました。公園には、屋台が並び、満開の桜を目当てに多くのお花見客が繰り出していました。



また、桜之宮公園と並行して造幣局があり、10日からは、“桜の通り抜け”が始まります。川に枝垂れ

かかるように咲いた満開の桜を川面から堪能したし、桜宮橋を過ぎたところで大川をUターンして、天満橋、天神橋をくぐり東横堀川水門に入ります。船舶を昇降させる閘門に進入し水位調整を行った後、道頓堀川に戻ってきます。



人気観光スポット、道頓堀

ここには、大阪を代表する、かに道楽本店、大観覧車のあるドン・キホーテ、グリコの看板、つばらや等があり、中国や韓国からのインバウンド客たちにも人気のスポットとなっています。水路をめぐるながら、大阪の文化や歴史、市章“湊標(みおつくし)”が、昔、難波江の浅瀬に立てられていた水路の標識だったことなど、落語家・桂三之助さんの軽妙な案内で、2時間のクルーズは、あっという間に終わりました。クルーズのあとは、観光客でにぎわう難波・道頓堀に戻り、「道頓堀 今井」で、名物のきつねうどんのついた定食セットで、遅めの昼食を摂りながら談笑しました。いつもは、路上から見ている大阪市内を、船に乗って川から見上げる風景は、新鮮でした。また、改めて“水の都”大阪の歴史を学んだ旅でした。

